

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																													
札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校		平成23年6月15日		佐藤博明		〒 060-0001 (住所) 札幌市中央区北1条西8丁目2-75 (電話) 011-280-2100																																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																													
学校法人コミュニケーションアート		昭和63年3月31日		近藤 雅臣		〒 550-0013 (住所) 大阪市西区新町1丁目1-18-22 (電話) 06-6536-7161																																													
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																														
文化・教養	文化・教養専門課程	パフォーミングアーツ科		平成31年文部科学省認定	-																																														
学科の目的	音楽・エンターテインメントと業界ではIT・テクノロジーの発展と共に、多様化する音楽コンテンツとメディアに対応できる人材が求められている。楽曲制作に関する専門技術だけではなく、エンターテック時代に対応すべく、デジタルコンテンツへの理解を深め、産学連携を通じて経験と実績を習得し、プロデュース能力を併せ持つことで業界に貢献できる人材を育成することを目的とする。																																																		
認定年月日	平成31年1月25日																																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																												
	2年	1800時間	0	1260	0	0	0																																												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																													
40人		10人	0人	1人	15人	16人																																													
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 基準: 各科目60点以上、総出席時間数の3分の2出席で合格。100～80点をA、79～70点をB、69～60点をC、59点以下をDとする。 評価の方法: 学科試験あるいは、実技試験、出席状況にて評価を実施																																														
長期休み	■学年始: 4月1日 ■夏季: 7月21日～8月20日 ■冬季: 12月24日～1月8日 ■学年末: 2月29日		卒業・進級条件		卒業要件: 1800時間/120単位以上を修得し、卒業判定会議にて承認された場合 進級要件: 1年次57単位、2年次57単位以上、を修得し、進級判定にて承認された場合 ※パフォーミングアーツ科昼間Ⅱ部は2023年度募集停止し、現在2学年のみが在籍。学年進行により2024年3月をもって廃止予定																																														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・長欠者への指導等対応 ・担任制度・三者面談・SSC(学生相談センター)		課外活動		■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 同好会・学園祭等の実行委員会等																																														
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 芸能プロダクション		主な学修成果(資格・検定等)※3		■サークル活動: 無																																														
	■就職指導内容 ・就職対策授業・校内企業説明会の実施・就職担当個別面談 ・身だしなみ指導				■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																														
	■卒業生数 37人				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
	資格・検定名	種別			受験者数	合格者数																																													
■就職希望者数 14人		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																																	
■就職者数 14人		■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																																																	
■就職率 100%		0																																																	
■卒業者に占める就職者の割合 : 37.8%																																																			
■その他 ・進学者数: 0人																																																			
・パフォーミングアーツ科(昼間Ⅰ部)は各事務所との所属契約という進路のため、一般的な就職形態をとった学生を就職者数として計上。  (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)																																																			
中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和4年4月1日時点において、在学者46名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者10名(令和5年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 心神喪失のため		■中退率 4%																																																
■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、学費相談(分割納入や延期納入)、スクールカウンセラー、保護者面談、三者面談、補修、課題提出																																																			
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 0		■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																																
■民間の評価機関等から第三者評価: 無																																																			

第三者による 学校評価	※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： 0 受審年月： 0 評価結果を掲載した ホームページURL 0
当該学科の ホームページ URL	https://www.ssm.ac.jp/course/□

(留意事項)

2. 就職等の状況(※2)

3. 主な学修成果(※3)

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

音楽エンターテインメント業界において、ITを使って人に感動や喜びを与えることができる人材として、即戦力を身につけるよう、職業教育を実施していくために、業界が必要とする人材を業界とともに育成する産学連携教育システムという考えのもと、業界の企業と連携した授業を実施している。また、講師会などにおいて、業界・団体の方の意見や動向、要望などを取り入れ、授業内容の見直しや授業方法の改善。工夫等を行なっていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

本校の教育課程編成委員会は理事会のもとに設置されている。よって、学校が編成した教育課程案は、教育課程編成委員会に付議し、必要な場合は、評議委員会において決議される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年8月25日現在

名前	所属	任期	種別
小島 紳次郎	一般社団法人 北海道ライブ・エンターテインメント連絡協議会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
水谷 禎志	サンバフリー株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
熊谷 まさひこ	株式会社クリエイティブオフィスキュー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
海野 清和	株式会社ジャイブプロモーション	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
池田 正義	一般社団法人 日本音楽制作者連盟	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
小南 千恵美	株式会社ランタイムミュージックエンターテインメント	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
中根 慶之	北海道音響事業協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
山本 弘	株式会社音響スタッフ	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
佐藤 博明	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
清水 敬博	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
津田 祐太	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
布村 展行	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
森 晴美	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
市川 貴子	札幌ミュージック&ダンス・放送専門学校	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月18日 14:00～15:00

第2回 令和5年3月24日 14:00～15:00

第1回 令和5年7月26日 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

令和2年第1回教育課程編成委員会では、教育課程編成委員に現状カリキュラムを「企業ニーズを反映した実践的かつ専門的な人材育成」という観点でご確認いただき、ご意見をいただいた。令和2年第2回では、第1回での意見を踏まえ、新たな授業の開設やシラバスの改善などを反映したカリキュラム案について確認、ご承認いただき、次年度カリキュラムとした。

企業等委員の意見

・自分で課題を見つけ、自分で改善策を考え、自分の言葉でプレゼンテーションするスキルの向上

・映像コンテンツの需要にともなう、授業シラバスの見直し

→「ビジネススキル」のシラバスを改定しプレゼンテーションをする機会を増やした。「映像技術」のシラバスを、より高い映像編集スキルを習得できるよう改定した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

3つの教育理念(実学教育・人間教育・国際教育)を掲げ、業界が求める人材を業界とともに育成する(産学連携教育)という考えのもと、業界の方から直接学生が目指す職業に必要な知識・技術を指導している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業プロジェクト・企業課題や企業研修などを通じて、目指す職業に必要な知識・技術を習得させる。直接業界の方に指導並びに作品審査や評価をいただき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
制作演習	2年間の集大成として、それを口学んできたことを口学生最後の作品として発表する卒業制作。1年時は1年間の成果を作品として発表する進級制作。	有限会社 KING PRO.

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修は、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。

研修対象は一般教員、学科長及び教務部長とし、ここの教育経験、在職期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標、研修方法並びに、評価指標を定めて実施。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: フルハーネス講習会

連携企業等: 関西舞台テレビテクノ&アート協同組合

期間: 令和4年10月8日

対象: 参加教員1名 非常勤講師  
3名

内容

法制度改正により、高所作業においては講習が義務化されている。ダンスや演技の分野業界での実習時に十分な知識と情報を持って参加できる必要があるため職員、非常勤講師が参加。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 進路アドバイザー研修

連携企業等: 滋慶教育科学研究所

期間: 令和4年8月26日

対象: 進路アドバイザー担当

内容

学校生活不全を訴える学生に対して、進路変更を検討・推進する担当者の養成を行う。

(3) 研修等の計画	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名:	足場組み立て講習会
期間:	令和5年7月16日(土)
内容:	法制度改正により、高所作業においては講習が義務化されている。ダンスや演技の分野業界での実習時に十分な知識と情報を持って参加できる必要があるため職員、非常勤講師が参加。
連携企業等:	関西舞台テレビテクノ&アート協同組合
対象:	参加教員1名 非常勤講師3名
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名:	DX推進研修
期間:	令和5年6月19日(月) 7月24日(月) 9月22日(金)
内容:	学校業務において、DXを加速するために担当人材の育成を行う。
連携企業等:	滋慶教育科学研究所
対象:	DX推進担当教員1名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

卒業生代表、保護者代表、近隣関係者、高等学校関係者とともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が行なった。自己点検、自己評価の内容を通し、学校運営の改善に生かすことを方針としている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、目的、育人人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	教育成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

職業人教育を通して社会に貢献できるよう、健全な経営基盤を持つ学校運営を目指す。そのために、学校評価委員会の委員からの意見を踏まえて、教育活動・環境の充実や学生支援の強化などを改善している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任 期	種 別
藤野 紗菜	卒業生	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生代表
高橋 保枝	在校生保護者	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者代表
大柳 依里	東海大学付属札幌高等学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	高等学校関係者
塚本 澄雄	中央地区第4町内会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域関係者
小島 紳次郎	一般社団法人 北海道ライブ・エンタテインメント連絡協議会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
水谷 禎志	サンバフリー有有限会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
熊谷 まさひこ	株式会社クリエイティブオフィスキュー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
海野 清和	株式会社ジャイブプロモーション	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
池田 正義	一般社団法人 日本音楽制作者連盟	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
小南 千恵美	株式会社ライントゥタイムミュージックエンタテインメント	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
中根 慶之	北海道音響事業協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: URL:https://www.ssm.ac.jp/school/public\_info/pdf/09\_appraisal\_ssm.pdf

公表時期: R5.4.1

